随筆 話題の読み取り

一期一会というのは、今日の茶会は一生に一度しかない茶会と思って、茶会の席に臨むべきだということを、その意味内容として持っている言葉である。従って、茶湯の本質を示している言葉であると言っていいであろう。（中略）

一期一会という言葉は、たいへんきびしくはあるが、いい言葉である。茶道の言葉ではあるが、そこから取り出して、ひろい人生の中に置いても、①その四字の持っている輝きはいささかも消えない。確かに人生のあらゆることが一期一会であると言っていい。あらゆることが一生に一度で、再びくり返されることはないのである。遠くから訪ねて来る友人を迎えるのも、一期一会でなければならないし、一つの集まりに臨むにも一期一会であるべきである。

人生百般、あらゆることに一期一会の観念を生かすべきであるが、ただそれは実際にはなかなか難しい。難しいからこそ、茶湯というものの存在理由があるのであって、茶湯という特殊な約束の世界を設定し、せめて、②そこに於てだけでも、一期一会の精神を生かそうというのが、茶道の開拓者たちの考えであったろうと思われる。

しかし、ひと度、自分が歩んできた過去を振り返ってみると、何とたくさんのすばらしい一生に一度の出会いがあることか。その多くは自分が意識して作ったものでも、自分が意識して求めたものでもなく、偶然によって生み出されたものではあるが、長い人生行路に於て、そこだけが輝いて見えている。人間との出会い、事件との出会い、風景との出会い、絵画や彫刻との出会い、言葉との出会い――そのいずれもが、なんらかの意味で、自分の考え方や、生きる姿勢に影響を与えてくれたものである。いずれも一生に一度の出会いであって、再びくり返すことのできないものばかりである。

（井上靖『井上靖全集 第二十三巻』新潮社 所収「わが一期一会」による）

例題

本文中から、次の内容が書かれている段落を探し、その最初の十字を答えなさい。ただし句読点も一字に含む。

筆者自らが経験したいくつもの出会いが、一期一会のものであったことを思い起こしている。

随筆の話題

筆者の体験・見聞・感想などを、筆に任せて自由な形式で書いた文章を**随筆**（ずいひつ）という。随筆には、体験などを文学的に描（えが）いたもの、筆者の見方・考え方を説明的に述べたものなどさまざまな形式がある。

	話題	内容
文学的随筆	季節・自然・旅・日常・家族　など	体験や、それに対する感想・思いなど。
説明的随筆	言語・社会・科学・読書・生き方　など	ものの見方や筆者の考えなど。

随筆は、次の点に注意して読み進めるとよい。

①**話題**を捉（とら）える。
　題や、繰（く）り返し使われる語句に注目する。

②**事実**と**意見・感想**を区別する。
・事実………筆者の体験や見聞など。
・意見・感想…経験や見聞に対する筆者の思い・考え。
※意見・感想を表す文末表現
　（例）…と思う。…と感じる。…だろう。…べきだ。

③**主題**（筆者が特に伝えたい内容）を捉える。
※意見・感想の部分に描かれていることが多い。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「その四字」とは何か。本文中から書きぬきなさい。

(2) ――線②「そこ」とは何か。本文中から十字以上、十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

～

(3) 次の筆者の考えが中心に述べられている段落を探し、その最初の十字を答えなさい。ただし、句読点も一字に含む。

人生のあらゆることが一期一会であり、どのような機会にも一期一会の思いをもって臨むべきである。